

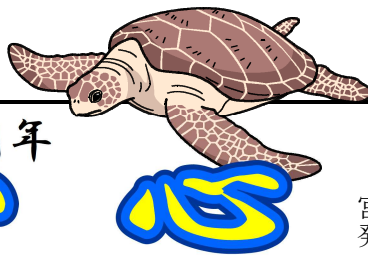


広

創立135周年

い

心



学校便り 16号

令和3年 10月6日
宮古島市立 狩俣小学校
発行者：校長 松原 伸一

「ウミガメさん、元気でね～」 ～ウミガメ講話・ウミガメ放流見学～

10月5日（火）の2校時に、1～4年生を対称にウミガメ講話を実施しました。講師は、水族館で働いている小林清重さん。小林さんは個人の研究として、20年以上前から宮古島に来島し、ウミガメについての生態調査を行ってきました。さらに、追い込み漁で網にかかったウミガメを狩俣の漁師さん達の協力をいただいで捕獲し、捕獲場所や日時等を記載した標識をつけ、放流するという活動を10年以上続けています。

小林さんの講話は、迫力のある写真やイラスト、実物を見せ、時折クイズも出しながら楽しく進められ、子どもたちは目を丸くして話に引き込まれていました。

世界には300種類のカメがいて、そのうち海で生活するウミガメは8種類しかいないということ。ウミガメには歯はなく、くちばしになっている。卵の形は丸く、1回の産卵で平均120個ほど。砂の温度29度を境に、雄か雌かが決まるということ……。

子どもたちは、「どうしてオサガメという名前なんですか？」と質問したり、小林さんのクイズに「後ろ足は卵を産むときに砂をかき分けるために使う。」と積極的に答えたりしていました。

事前に、子どもたちは海の生き物について図鑑や本で調べていたこともあり、興味を持ってさらに知りたかったことが増えたのではないのでしょうか。

海岸線がゴミでいっぱいになっている様子や、ゴミの多い砂浜で卵を産んでいるウミガメの様子の写真を見た子どもたちは、「うわあ～、大変だ。」「え～、かわいそう。」と驚いた表情に。講話が終わった後も、興味津々で、小林さんをつかまえて、聴きたいこと知りたいことを質問していました。



5校時には、幼稚園生も一緒に、ウミガメ8頭の放流に立ち会いました。狩俣漁港の水槽で泳いでいるウミガメをトラックに乗せて、前の浜まで運び、小林さんと漁師の皆さんが砂浜に下ろしてあげました。

ウミガメたちは、前足を元気よくかきながら、グングン海に向かって進んでいきます。歩きの速いカメさん、ゆっくりなカメさん、それぞれですが目指すのは海。子どもたちは、「がんばれ～、もう少しだよ。」「ほらほら、あとちょっと。がんばれ～」と声をかけながら見守っていました。元気な姿で大海原を泳ぎ回って欲しいですね。



小林清重さん、漁師の皆さん、素晴らしい学びの時間をありがとうございました。

10月の行事予定

- 1日（金）：安全点検日・人権の日
- 4日（月）：読み聞かせ、視力検査（低学年）
- 5日（火）：発表朝会（図書委員会）
ウミガメ講話・放流
- 6日（水）：お話朝会
- 7日（木）：ワクワクタイム
視力検査（高学年）
- 8日（金）：授業参観日
5校時（授業参観）
6校時（情報モラル講話）
放課後（職員、保護者向け講話）
- 11日（月）～17日（日）
ノーメディアウィーク・チャレンジ
- 13日（水）：発表朝会（3, 4年）
- 14日（木）：ワクワクタイム
- 17日（日）：家庭の日・ファミリー読書
- 18日（月）：読み聞かせ
- 20日（水）：追い込み漁見学（5, 6年）